

The Japan Association of Radiological Technologists  
ネットワーク・ノウ

# Network Now

2017 No.493

JART情報  
<http://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会  
〒105-6131 東京都港区浜松町2-4-1  
世界貿易センタービル31階  
TEL. 03-5405-3612 FAX. 03-5405-3613



## The 19th International Society of Radiographers and Radiological Technologists (ISRRT) World Congressが開催される

2016年10月20日(木)から22日(土)まで、第19回ISRRT World Congressが韓国のソウルで開催された。ISRRT World Congressは2年に一度、ヨーロッパ・アフリカ地域、アジア・オーストラレーシア地域、北南米地域の3地域を順番に回って開催される。そのため同一地域での開催は6年に一度となる。JARTからは中澤会長、佐野副会長、中村理事、児玉理事の4人が代表者として出席。ISRRT World Congressに先立ち、18日(火)の午前、ISRRTのFozy会長によるオープンフォーラムが開催された。このオープンフォーラムでは、ISRRT会長によるISRRTの活動報告について説明があった。特に、ISRRTの使命とビジョン、収支報告と財務内容、ISRRT各担当理事の活動状況について、詳細な説明がなされた。また午後には、アジア・オーストラレーシア地域会長会議も開催され、出席したアジア各国の代表者からの活動報告や活動計画について説明があった。

19日(水)には、ISRRT Council Meetingが開催された。このCouncil Meetingでは、ISRRT加盟国の代表者が一堂に

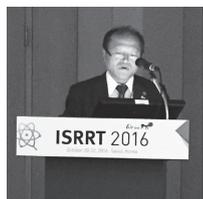


海外研究発表者助成金受賞者

会し、今後のISRRTの運営方針について議論される。今回、診療放射線技師の職業の定義をILO(国際労働機関)に登録するための活動、診療放射線技師の倫理綱領を作成することなどについて議論された。また2020年のISRRT World Congressは、アイルランドで開催されることも決定した。

20日から22日までのWorld Congressでは、日本から40題の研究発表(口述発表19題、示説発表21題)があり、日本からの参加者は76人と、参加57カ国中最多の人数であった。また2013年より、JARTでは海外研究発表者助成金制度を実施しており、今回は23人の会員が海外研究発表者助成金を受け、World Congressにおいて研究発表を行った。20日は中澤会長によるAsia Forumでの講演、22日には児玉理事によるInvited Lectureもあった。なお、Best Oral Abstract Awardに舩田会員、中村会員、Best Poster Abstract Awardに染谷会員、黒澤院生(学生)が選ばれた。

次回、第20回ISRRT World Congressは、トリニダード・トバゴで2018年4月12日(木)から15日(日)の日程で開催される。JARTでは、日本から多くの研究発表が行われるよう支援をしていくので、多くの会員のご参加を期待します。



左上: 中澤会長によるAsia Forumでの講演

左下: Best Poster Abstract Award

右上: ISRRT Council Meeting

## 第1回 Ai認定講習会開催される

平成28年10月29日(土)・30日(日)の2日間、純真学園大学で第1回Ai認定講習会が開催された。本講習会は、Ai認定診療放射線技師のための指定講習会である。受講者数は合計で92人(会員87人、非会員5人)であった。

1日目は、医師から「Aiにおける基本事項」「Aiにおける法令・倫理」「Aiにおける医療安全・感染対策」「Aiにおける病理学」「Aiにおける法医学」「Aiにおける画像診断① 総論」「Aiにおける画像診断② 救急」および「Aiにおける画像診断③ 小児」の8つの講義があり、最後に確認試験を行った。講義では、Aiにとって大変貴重な画像やAiの読影に関

する内容があった。

2日目は、看護師より「Aiにおける看護学」の講義があり、続いて「Aiにおける検査総論・一般撮影」「AiにおけるCTの検査技術」「AiにおけるMRIの検査技術」の合わせて4つの講義があり、その後、確認試験を行った。看護学では、遺族などへの心理的配慮が述べられており、Aiを実施する上で非常に重要であると感じた。また各モダリティのAiに対する技術的な講義では、基礎的な内容ではあったが、非常に重要な事項から応用技術まで幅広い内容が述べられていた。

最後に修了証が授与され、本講習会は無事に終了した。

## 平成28年度 第2回 実践医療被ばく線量評価セミナー開催報告

平成28年11月13日(日)、本会事務所講義室において標記セミナーを開催した。本セミナーは線量推計ソフトを実際に用いての実習型講習会のため、定員を48人に設定している。毎回、定員一杯の申し込みを頂いており、本セミナーへの関心の高さがうかがえる。残念ながら今回は7人の欠席者があり、参加者数は41人であった。受講者の多くが本会事業である医療被ばく低減施設認定の取得を目的としているとのことより、実習をサポートするインストラクターは認定施設に従事する方々や認定審査を行うサーベイヤーの方にお願ひし、施設認定取得に関する質問にも対応している。受講者からは「評価値をどのように取りまとめればいいのか」や、評価値を臨床業務に反映させる方法など、現実的な質問を頂戴し、個々に対してのアドバイスが行われていた。施設認定取得に際しての経験談や情報交換が気軽に行えることも、本

セミナーの特徴であると考えます。

講義内容は、一般撮影系(透視検査を含む)では推計ソフトであるPCXMCの操作方法や推計時の注意事項に始まり、推計結果が表す意味などの解説が行われた。CTではImPACTに加え、本年度からはWAZA-ARiv2の開発に関わっておられる国立研究開発法人放射線医学総合研究所の古場先生をお招きし、登録方法や使用の際の注意事項など、詳細なご説明をいただいた。WAZA-ARiv2は操作性も良く、フリーソフトでもあるため、普及することが予想される。現時点では一部の装置での使用が不可ではあるが、順次更新される予定とのことであった。

来年度も2回の開催を予定し、皆さまのご参加をお待ちしております。

(文責：鈴木賢昭)

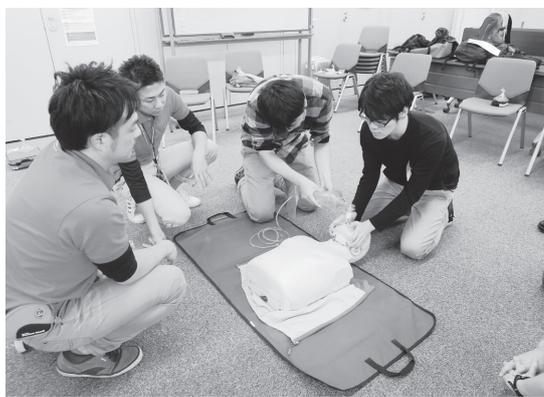


## 救急医療学講習会開催報告

平成28年11月3日（木・祝）、本会事務所講義室において標記講習会が開催された。本講習会は、アドバンス診療放射線技師格取得に必須な科目であると同時に、医療従事者として、医療機関内だけでなく公共の場でも実践できるような技術の習得に役立つ内容である。

当日は、日本救急医学会ICLS認定インストラクターの資格を有する講師の指導の下、胸骨圧迫、気道確保・換気、AED取り扱の実習を行った。

業務拡大に伴う統一講習会でも一次救命処置の項目が含まれているが、本講習会ではそれに加え、呼吸管理実技や一次救命、救急医療の歴史、問題点を学ぶことができ、非常に有意義な講習会であった。



気道確保・換気指導風景



座学風景



実習風景



実技試験風景

## 「救急医療学（実技）」講習会に参加して

鈴木 正晴

東京健生病院

参加者の  
声

2016年11月3日（木・祝）、日本診療放射線技師会本部研修センターで開催された『救急医療学』講習会に参加しました。受講した理由は、救命救急に興味があったこと、院内でのAED講習講師に向けて役立てたかったこと、技師格のランクアップに必要なことが大きな理由です。講習会では心肺蘇生のポイントや実習、日本の救急医療の問題点などを学びました。

人命を救うのに1人でできることは限られているため、必要なのは『救命の連鎖』だということを知りました。『救命の連鎖』とは、4つで構成されています。

- ①心停止の予防
- ②心停止の早期認識と通報

③一次救命措置BLS（Basic Life Support）

④2次救命の処置と心拍再開後の集中治療

今回の講習では、その中のBLSについて集中的に学びました。

救命措置の歴史は意外に古く、1500年ごろから行われていたようです。ただ、その時代の方法といえば、木に逆さまにつり下げてみたり、樽の上でうつぶせにして転がしてみたり、走る馬の背中に乗せて衝撃を与えたのだそうです。今との大きな違いに大変驚きました。傷病者に何かショックを与えるということでは共通しているのですが、現代に生きていて良かったなと感じてしまいます。

実習をして感じたことは、頭では理解しているつもりでも、いざ自分の順番になって『さあ、やってみましょう!』と言われると、まるでその言葉がトリガーであるかのように緊張感が増し、手順が頭から抜けてしまいます。もしも

これが本番だったらと思うとヒヤリとします。

難しかったことは、バックバルブマスク換気です。マスクがうまく密着しなかったり、焦って装着するとマスクの上下を間違えてしまいます。また1人で換気を行う際には、10秒以内に傷病者の体側から頭側に移動し、2回の加圧換気をしてすぐに戻ってくるのが大変でした。マスクの押さえ方にもいくつか方法があり、人数やどの方法を選択するかもマスクの密着度が変わり、効率よく楽に換気を行う方法もありました。うまく換気ができなくても、2回やったら胸骨圧迫にすぐに戻ってこなくてはいけないというのを改めて確認できたことも収穫でした。除細動までの時間が1分遅れるごとに、7~10%も救命率が低下するという事実から考えると、それぞれがとてつもなく大切な時間です。

今回の『救急医療学』受講に関して、担当していただいた講師はICLS (Immediate Cardiovascular Life Support) のインストラクターを取得した方々で非常に知識も深く、

説明も分かりやすかったです。いくつかの疑問にもすぐに回答していただきました。今後に生かせることばかりでした。早速、院内でのAED講師の補助がありましたが、今までとは異なり、自信を持って受講者にアドバイスができました。

今後、もしどこかで傷病者に遭遇したら、一刻も早く適切な救命措置を行うことが尊い命を救い、その方の生活を守ることに繋がります。だとすれば、傷病者の元へ迷わず駆け寄り、今回学んだBLSを焦らず的確に行うべきです。

院内では、診療放射線技師として自分のできる役割をしっかりと確実にし、一歩外に出たら医療従事者として周りをリードし連携していきたいと思います。

最後になりますが、この大変貴重で有意義な講習を担当していただいた講師の皆さまと、運営に携わっていただいた方々に感謝致します。ありがとうございました。

## 細井 慎介

埼玉医科大学総合医療センター

医療に携わる者として、一次救命処置が大切と考え本講習会に参加しました。

実技講習では、急病人の発見時からその後の対応方法(胸骨圧迫やAEDの使用方法など)に関して、分かりやすく丁寧にインストラクターの方より指導していただきました。

参加者の  
声

今までAEDの使用やバックバルブマスク換気をする機会はほとんどなかったため、正しい使用方法を指導していただき、理解を深めることができました。また胸骨圧迫の重要性も再認識することができました。

今回の実技講習を受けて、一次救命処置の大切さを改めて感じたと同時に、定期的に講習会に参加しなければスキルが落ちてしまうと感じました。熱心に指導していただいたインストラクターの方々には、この場を借りてお礼を申し上げます。

# 平成28年度 苫小牧放射線技師会 学術研究会開催される

平成28年11月12日(土)午後3時より、北海道苫小牧市の王子総合病院3階講堂において平成28年度苫小牧放射線技師会学術研究会が、苫小牧放射線技師会主催、一般社団法人北海道放射線技師会共催により開催された。

研究会は、苫小牧放射線技師会会長の村上佳宏氏の開会あいさつにより始まり、一般演題(7演題)、理事会報告、アンケート結果報告、最後に本会中澤靖夫会長の講演という内容であった。

一般演題は、装置管理・一般撮影・血管撮影・核医学検査・超音波検査と、演題数は少ないながらも内容は多岐にわたっており、充実したプログラムとなっていた。中澤靖夫会長による会長講演では「日本診療放射線技師会の政策と課題」というタイトルで約1時間講演され、参加された方々は熱心に

耳を傾けていた。参加者は57人(会員43人、非会員・協賛会員14人)であった。

最後に、苫小牧放射線技師会副会長の川村真一氏が閉会のあいさつをされ、会は盛会のうちに終了した。



# 平成28年度 北海道地域 学術大会開催報告

一般社団法人北海道放射線技師会  
副会長 眞田 秀典



最優秀賞 鈴木氏



特別賞 杉本氏

平成28年10月22日(土)・23日(日)の2日間、札幌医科大学記念ホールにおいて平成28年度公益社団法人日本診療放射線技師会北海道地域学術大会(板東道夫大会長)が行われた。「next stageへ 技術と臨床のシナジー」を大会テーマに、全道の診療放射線技師、延べ184人(22日106人、23日78人)の参加で盛大に開催された。

初日の22日(土)は午後2時から始められ、一般演題発表では16題と過去最多となり、セッションを4つに分けての発表となった。多岐にわたる部門の発表の中、札幌放射線技師会から副会長 関戸雄一氏より『地域医療における放射線技師会の役割～札幌市夜間急病センターへの技術協力を通して～』と題して、昭和47年から続けられている技師派遣についての活動が報告・発表された。また『妊娠中の方、妊娠の可能性のある女性へ向けたポスターの作製とその回答に関する職場内教育について』では、札幌医科大学附属病院の女性技師のワーキンググループの取り組みが発表され、杉本晴美氏が特別賞の受賞となった。今回の北海道地域学術大会で、一般演題最優秀賞は網走脳神経外科病院 鈴木崇史氏の『後交通動脈の描出に3D-HeavyT2WIが有用であった症例』が受賞となった。

教育講演では、整形外科領域におけるMRI検査の第一人者、札幌医科大学附属病院 放射線部 高島弘幸氏をお迎えして『診療放射線技師が知っておきたい脊椎画像検査における考え方』と題してご講演いた

だいた。整形外科では、理学所見を中心にX線撮影やCT・MRI検査が依頼されるのが一般的であり、それらを総合的に判断し、治療を行っている。その中でも、脊椎・脊髄の画像検査を中心に撮影の意義と検査が、診療にどう役立てられているかを紹介された。また近年提唱されている新たな腰椎X線撮影法などの意義についての解説もされ、病態を理解しながらの検査法の重要性が理解された。その後のディスカッションも活発な討議が行われ有意義な講演となった。

翌日の23日(日)の早朝からは『マルチモダリティによる乳腺画像診断を理解する』という乳腺をテーマにしたシンポジウムが開催された。基調講演は北海道大学病院 放射線診断科 加藤扶美先生の「乳腺MRIの読影」が講演され、乳がんにおける造影検査をはじめ読影法が紹介された。続いてMRIの撮像ポイントとして、北海道大学病院 青池寿々子氏が基調講演の補足的な内容も含め、MRI造影検査法を技術的な面を交え講演を行った。さらに「MMG」に関してJA北海道厚生連旭川厚生病院 岡崎真吾氏、「US」に関してJA北海道厚生連網走厚生病院 岩間寛氏が講演され、それぞれのモダリティに造詣の深い3人の診療放射線技師により、撮影・読影ポイントについての講演が行われた。日本では年々乳がんの死亡率が増加傾向にあり、検査での描出率向上、また各モダリティの有効性・欠点を明確にした有意義なシンポジウムとなった。これからまだまだ重視される部門であるため、今後も繰り返し勉強の機会が望まれる。



板東道夫大会長



教育講演 高島氏



基調講演 加藤先生



青池氏



岡崎氏



岩間氏

# レントゲン週間 イベント開催される



本会では、1895年11月8日のW. C. レントゲン博士によるX線発見を記念し、毎年11月2日～11月8日の一週間を『レントゲン週間』と制定している。放射線の専門家として正しい知識を国民に伝えるとともに、私たちの仕事を知っていただくためのイベントを企画し、毎年、全国各地でさまざまなイベントが開催されている。

(本会主催)

## YOKOHAMA

本年もレントゲン週間にちなみ、11月5日(土)にクイーンズスクエア横浜・クイーンズサークルで、レントゲン週間イベントを本会主催で開催した。会場には、トークセッションを行う舞台、診療放射線技師の仕事紹介、放射線の説明などのパネル展示、CT画像を使用した画像処理体験のコーナーを設置した。CT画像処理体験コーナーでは、3次元ワークステーションを設置し、実際のCT画像を使用して3次元の画像処理を行うことができ、多くの一般市民の方に体験していただいた。診療放射線技師の仕事を紹介するコーナーでは、仕事内容を簡単に示したZカードを配布し、実行委員の診療放射線技師が来場者からの質問に対応した。また舞台の上では、レントゲン週間イベント実行班 小野欽也班長の司会進行でトークショーを行い「レントゲン博士の生涯」「診療放射線技師の仕事紹介」「放射線のことを勉強しましょう」「CTの画像処理体験クイズ」の4コンテンツを休みなく繰り返し行った。トークショーの舞台では、放射線の説明や診療放射線技師が従事する検査などについて分かりやすく説明を行い、来場者からの質問を受けるなど、診療放射線技師と一般市民の方が交流しながらの

双方向トークショーとなった。このイベントの実施により、放射線や診療放射線技師について、一般市民の皆さまにご理解いただけたものと確信している。一般市民が行き交うオープンスペースでの開催であることに加え、仕事紹介のZカードと一緒にノベルティグッズを配布したことから、千人以上の方々に足を止めていただき、イベントは成功裏に終了した。



(本会共催イベント)

## AKITA

平成28年11月5日(土)に、秋田市秋田拠点センターアルヴェ(ALVE)きらめき広場で医療放射線画像展2016を、主催秋田県診療放射線技師会、後援秋田県臨床工学技士会、秋田県臨床検査技師会、あけぼの会秋田、秋田県健康福祉部、日本放射線公衆安全学会の下で開催した。当日は、秋田市立桜中学校吹奏楽部の30分にわたるオープニング演奏からスタートし、会場には64枚のポスターを展示し、約200人の一般市民に放射線被ばく・医療・画像検査・疾病についての相談や中高生への進路紹介などを行った。ステージでは職業紹介、秋田県のがん対策の取り組み、医療被ばくに関する講演を行った。超音波による骨密度測定には、100人を超える市民の参加があった。

(秋田県診療放射線技師会 担当理事 照井 正信)

(本会共催イベント)

# SHIZUOKA

平成28年9月4日(日)に、静岡市青葉シンボルロードで第37回静岡市ふれあい広場を開催し、超音波検査無料体験に179人、骨密度測定無料体験に237人、乳がん検診のすすめに106人、医療被ばく相談に20人、合計約600人の一般市民がこのイベントに参加した。

(静岡県放射線技師会 愛甲 泰久)



同日、浜松市可美公園総合センターにおいても「可美公園まつり2016」健康ブースに参画し、骨密度測定無料体験に235人、乳がん検診無料相談に57人、合計約300人の一般市民がこのイベントに参加した。

(静岡県放射線技師会西部地区会 竹田 守)



また平成28年10月15日(土)には、伊豆の国市韮山福祉・保健センターで第12回市民ふれあい広場を開催し、無料骨密度測定、パネル展示、放射線被ばく相談を行った。当日は晴天に恵まれ、市民65人の参加があった。

(静岡県放射線技師会東部地区会 大倉 善郎)



(本会共催イベント)

# WAKAYAMA

平成28年11月5日(土)に、和歌山市パームシティ和歌山店でレントゲン週間に伴う放射線パネル展を開催し、放射線パネル展示、放射線被ばく相談、骨密度測定を実施し、市民56人の参加があった。

(和歌山県放射線技師会 堂内 一雄)



(本会後援イベント)

# HOKKAIDO

平成28年11月5日(土)に、札幌市札幌医科大学記念ホールで市民公開講座「画像診断によるがん検診の最前線(受けましようがん検診)」を開催した。今回の市民公開講座のテーマを『画像診断によるがん検診の最前線』とし、がん検診の受検の重要性について、市民にメッセージ性のある内容をJA北海道厚生連札幌厚生病院 健康管理科主任部長 赤池淳先生に講演していただき、検査方法の説明を行った。その後、2人の診療放射線技師が『胃がん検診・肺がん検診』と『乳がん検診』について、最新の検査と検査方法の説明を行った。

(北海道放射線技師会 眞田 秀典)



# 第6回 東北放射線医療技術 学術大会 開催報告

第6回 東北放射線医療技術学術大会  
テーマ『今を究める Feel the Future』

第6回東北放射線医療技術学術大会  
大会長 豊嶋 英仁



平成28年10月22日(土)・23日(日)の2日間、第6回東北放射線医療技術学術大会((公社)日本診療放射線技師会 平成28年度東北地域学術大会ならびに(公社)日本放射線技術学会 東北支部第54回学術大会の合同開催)が秋田市にぎわい交流館AU(あう)において開催され、成功裏に終了しました。

新潟県を含む東北地域に加えて関東からも参加を頂き、登録者数は500人を超え大盛況でした。

近未来を見通して今を究めることを託して、大会テーマ『今を究める Feel the Future』を掲げました。一般研究発表は137演題と大変多くのご応募を頂きました。大会テーマが日ごろの学術研究の成果に

リンクして喜ばしく感じております。

式典には、来賓として(公社)日本診療放射線技師会 熊代正行副会長ならびに(公社)日本放射線技術学会 小倉明夫代表理事が列席されました。

その他の企画については、特別講演「脳虚血を究める」、シンポジウム「診断参考レベルを究める」、東北地域技師会企画「被ばく低減施設認定について」、JSRT国際戦略委員会&東北支部企画「英文スライド、英語抄録の作成」、テクニカルミーティング、ハンズオンセミナー、機器展示を開催しました。

本大会の実行委員はじめ、共催の日本診療放射線技師会など多くのご協力を頂き、感謝を申し上げます。



INFORMATION



第4回

## 第33回日本診療放射線技師学術大会 函館への道(食・街・人)

函館放射線技師会 会長 真壁武司



### 函館のイカ

函館といえばやはり海鮮料理になります。函館の代表的な海の幸、イカの魅力をお伝えしたいと思います。函館のイカ漁は、例年6月にスルメイカ(真イカ)が解禁され冬ごろまで捕れます。函館の夜景の一部を飾る幻想的な漁火として、湯の川温泉などから見るすることができます。イカ漁はかなり機械化されており、鮮度を保つ工夫や船にある生簀いけすで生きたまま運ぶなどして、透明感のある身とコリコリとした食感の「活イカ」として流通させ、お店まで届けております。定番の食べ方としてはやはりお刺身となりますが、生姜醤油で口にするのが函館流です。また塩ゆでにしたジャガイモにイカの塩辛をのせたり、駅弁としても有名な「イカ飯」、酒のつまみとして重宝される「さきいか」など食べ方も豊富です。ということで、函館のイカを満喫できるお店を紹介します。

#### ●魚一心

函館の庶民が昔から通うお店で、雰囲気も大衆居酒屋といった感じでステキなお店です。

#### ●函館海鮮居酒屋 魚まさ 五稜郭 本店

地産地食をテーマにイカや魚だけではなく、おいしい野菜もいただけるお店です。

#### ●よし庵

筆者の施設に近い国道5号線沿いにある小さな海鮮居酒屋です。穴場的なお店で平日でもなかなか混み合っています。

#### ●居酒屋食堂 さわ7 (サワセブン)

こちらも筆者の施設に近く、五稜郭駅前にある隠れ家的なお店です。日本酒も豊富でその日に捕れた魚で生きのいいお刺身を提供してくれます。

#### ●木はら 総本店

凛とした調理場を囲むカウンター席や、接待などでも使用できる個室があり、窓からは日本庭園が眺められるなど、味はもちろん、接客やサービス評価が高いお寿司屋さんです。湯の川地区になりますが、少し値段が気になるかもしれません。

この他、函館朝市のアトラクションとして「活イカ釣り堀」でのイカ釣り体験もできます。水槽で泳ぐイカを針に引っ掛けて釣り上げ、すぐに職人さんにさばいてもらい、ピチピチが食べられることで大人気です。函館に来たからには、ぜひイカ料理を堪能してください。

## Network Nowのデジタル化移行のお知らせ

INFORMATION

平成28年4月より、3カ月間の遅延を設けてNetwork Nowをホームページへ掲載してまいりましたが、皆さまより遅延のない閲覧を希望するご意見が多くございました。つきましては、平成29年4月より3カ月間の遅延を廃止し、ホームページへ掲載することとなりました。また同時に冊子も廃止となり、Network Nowはデジタル化移行となります。ぜひご活用ください。

求人コーナー

掲載期間終了のため、  
非表示にしています

掲載期間終了のため、  
非表示にしています

## JART求人広告掲載について

本誌に掲載する診療放射線技師募集の求人広告を随時受け付けております。申込書ならびに募集要項につきましては、  
本会ホームページ（各種様式→その他）よりダウンロードしてご確認ください。

なお、掲載月の前月5日が掲載申し込みの締め切りとなっております。

INFORMATION

## 猫に教わったこと

シリーズ連載  
series serialization

五感 — five senses

わが家には、2人のおばあちゃん猫がいる。縁あって出会ってからそれぞれ18年以上たつ。1人は虫下しの薬が効き過ぎて死にそうになったり、避妊手術の麻酔が覚めずにひやひやさせられた。もう1人は膀胱結石や変形性腰椎症が良くなったと思ったら、ひもを食べてイレウスになり1週間点滴で耐え忍び、やっとひもが出てきてホッとするのもつかの間、メタボからの糖尿病になり、現在はインシュリン注射で管理している。

それでも、2人とも毎日元気でよく寝て、よく食べて、よく甘える。近ごろは子供返りで外に出たがるため、犬の散歩のようにリードを着けて近所を練り歩く。

若いころは、テーブルに乗ると叱ったものだが、今は「よく上ったね～、スゴイ！スゴイ！」なんて褒めているのが自分でもおかしい。

猫の18歳は、人間の90歳前後に当たる。猫と一緒に暮らすと決めた時から、寿命の違いがあることは分かっていたつもりだが、近ごろいろいろと考えさせられる。

猫は、いくらつらくとも死ぬことは考えない、生きることだけを考えて（考えているのだろうか？）いると獣医師に聞いた。だから生きるために食べて動く、動けなくなったら食べられなくなるし、食べられなくなったら動けなくなり死んでいく。人

間はどうか？食べられなくなっても胃瘻で無理やり食物を入れ、意識がなくなって、動けなくなっても生かされていく。生きるってことは、食べて、動いて、考えられてこそではないだろうか？

家のおばあちゃんたちは自由だ。猫だからこそその気ままな性格もあるが、やりたいことを主張する。毎日を好きに生きている。私は、限りある時間を悔いのないよう過ごせるように、彼女たちが召された時に後悔しないよう、できる限り尽くすのみである。

さて、自分の人生においてはどうか？好きな言葉に「一期一会」がある。もともとは茶の湯の教えを説いた言葉で「茶会は常に人生で一度きりのものと心得て、相手に対して精いっぱい誠意を尽くさなければならない」「人と人との出会いは一度限りの大切なもの」という意味を持つ。「一期一会」の出会いと思った相手が後々救ってくれたり、生涯を共にするパートナーや大切な友人になったりする。全国理事になり、たくさんのすてきな方たちとの「一期一会」が増えて大切な財産になっている。

人生は、日々体験する「一期一会」の積み重ねだと思う。「一期一会」の出会いを大切に、一瞬一瞬を大事に楽しんで生きていきたいと思う。  
(文責：藤井雅代)

## 本会の動き

副会長 熊代 正行

### — 政府与党との政策懇談会開催される —

10月13日(木)に、公明党診療放射線技師制度に関する議員懇談会(懇談会会長 石田祝稔衆議院議員)が衆議院第2議員会館で開催され、多数の衆参公明党国会議員と本会から中澤会長、佐野副会長、熊代副会長、小田理事、野村事務局長および木村専門職が出席した。

また10月21日(金)に、自由民主党予算・税制に関する懇談会が自由民主党本部で開催され、衆参自由民主党国会議員と本会から熊代副会長および保川専門職が出席した。

両懇談会において、本会から提出された10項目にわたる要望書事項のうち、以下の重点3項目について説明を行い、質疑応答が行われた。

- ①がん対策推進基本計画に基づく診療放射線技師育成の充実および環境整備
- ②養成教育の四年制大学化および参加型臨床実習の実現
- ③国家試験委員の構成について

## 1月・2月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

掲載期間終了のため、  
非表示にしています

### 事務所 案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。  
ただし、土曜、日曜、休日、祝日および年末年始(12月29日～1月3日)は執務致しません。